

## 恵庭市立図書館恵庭分館等の視察について

|        |  |
|--------|--|
| 委員名    | 白石委員、岡部委員、近江委員、轡田委員、平田委員、松田委員、三石委員   |
| 1 施設名  | 恵庭市生涯学習施設かしわのもり、恵庭市立図書館恵庭分館  |
| 2 視察日時 | 令和 5 年 6 月 15 日 (木) 10:00~12:00  |
| 3 対応者  | 恵庭市生涯学習施設かしわのもり：恵庭市教育委員会教育長 岩淵隆氏、社会教育課長 黒氏優子氏<br>恵庭市立図書館恵庭分館：恵庭市教育委員会読書推進課長 藤井昌人氏、主査 岩崎春恵氏 |

## 恵庭市生涯学習施設かしわのもり

## (1) 建設の経緯

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年 地域住民から複合施設の要望書、平成25年度 整備構想策定協議会 平成28年9月オープン</li> <li>当初は図書館の要望があったが、経費面などから図書館の要素を持ち(学習機能)、体育館機能(運動機能)、市民の居場所(交流機能)や子育て支援センターなど(子どもの居場所機能)を有する複合施設に。</li> </ul> |
|--|

## (2) 施設の特徴

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>本の回廊(各部屋と一体的な本棚が約100m連続)</li> <li>住民が自分たちで参加して運営</li> <li>令和4年度から指定管理制度導入(シダックス大新東ヒューマンサービス(株))</li> <li>ブックステーションの機能(予約、取り置き、受取、返却)。毎日配本車来る。小中図書館とも接続。高校は別ラインで接続(高校の要望は少ない)</li> <li>プレイスペース(子どもの居場所)</li> <li>緑のカフェ(ボランティアが運営) 壁面に作品展示もできる</li> <li>ミニキッチン</li> <li>スポーツ練習場(武道館の機能を継承して剣道できる)</li> <li>樹木や自然の継承</li> </ul> |
|---|

## (3) 利用者数

|  |
|--|
| ・H30 43,372人 R3 21,510人 R4 32,486人 R5も回復傾向 |
|--|

## (4) 質疑応答・意見交換 ○社会教育委員 ●市教委

|   |
|---|
| ○今までなかった機能、引き継いだ機能はどのようになっているか                          |
| ・町内会の交流機能、武道館の機能は引き継ぎ、図書館や喫茶、キッチンは住民の希望で追加。             |
| ○住民の希望は、どういった方の希望なのか。                                   |
| ・学校関係者、PTA、町内会、子ども育成会、老人クラブなどの方々から意見を伺った。協議会は町内会中心となった。 |

## 恵庭市立図書館恵庭分館

## (1) 施設の現状と課題

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>恵庭駅前の賑わい創出を目的として民間が建設し、公共が施設を間借り。民間は地代を支払い、公共は室料を支払い。</li> <li>説明会場である会議室2は、午前中は一般開放、午後は学童クラブで使用。その隣は子育て支援センター、その奥のホールは子ども広場で、帰宅後に子どもたちが遊びに来る場所。</li> <li>えにあすは、所管である生活環境部が市民活動センターに委託して管理。1階の奥には夜間診療所もあり、民間施設としてはFM、宮の森スポーツ、セイコーマートがあり、2階には保健課などがある。</li> <li>旧恵庭分館は今の建物の隣にあった学び館にあり、閲覧席が35席、250㎡で約5万冊の蔵書があった。えにあすに移った時に専用の閲覧席は作らないコンセプトになったので、施設内ならどこでも閲覧できることにした。建物を出るときには、カウンターで借りるか、手のひら認証でセルフで借りてもらう。面積が195㎡になり蔵書も約6000冊減少。インターネットで予約し、予約ロッカーで受取可能。</li> <li>利用時間：9:00~22:00。本来は9:30~19:00まで開館だが、ICT化で9:00~9:30、19:00~22:00無人貸出。</li> <li>ゆっくり本を読める場所がない。子どもたちの利用も多く賑やか。土日にミニコンサートもあるので、初めの1~2年はうさぎという苦情があったが、今は慣れたのかない。</li> </ul> |
|--|

## (2) デジタル活用の状況

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>手のひら認証システム：来館者増でまちの賑わいづくり創出のため令和3年3月導入。一部無人化で開館時間拡大。セキュリティゲート設置で借り忘れ防止。</li> <li>かしわのもりと黄金ふれあいセンターにブックステーション設置。インターネットや電話で予約して翌日には受取可能であり利用多い。</li> <li>カリンバ遺跡の出土品は資料館で管理されているが、3D画像や資料を図書館HPで閲覧可能に。</li> <li>ボランティアの協力で恵庭市史の電子化を進めている。</li> </ul> |
|---|

## (3) 民間資金の活用の取組

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>えにあすは30年の借地契約(平成30年4月供用開始)。その後は撤退の予定。地代をもらい、使用料を払っている。</li> <li>雑誌スポンサー制度：平成27年3月から開始。18企業、1個人が社会貢献の一環で雑誌提供(31誌)。180のリストから選んでもらい1年間代金を前払い。1年後に精算。希望に添って本館・分館に配置。恵庭分館はまちづくり協同組合が提供。風俗や営業、賃貸業は対象外。初めは職員が営業に回ったが、継続が多くて助かっている。</li> </ul> |
|---|

## (4) 本館と分館の連携等

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>本館と分館にある本はリクエストすれば翌日には借りられる。蔵書の減少をカバーしている。</li> <li>学校図書館も一元化して管理している。授業で必要な本を用意して配本している。</li> </ul> |
|---|

## (5) 質疑応答・意見交換 ○社会教育委員 ●市教委

|   |
|---|
| ○手のひら認証のランニングコストなどはどれくらいか。  |
| ●単純に導入で1500万円位。職員を5人から2人減らしたが、ICT化でロッカーに配本する人などの裏での作業が増え、0.8人工増やした。手のひら認証を試してすぐに返す人もいた。想定以上に人が必要。3人だと誰も休めない。5年でペイできると考えていたが、まだ先になる。手のひら認証は高齢者からも便利だという声が聞かれる。予約ロッカーも自分のペースで本を受け取れる(1週間取り置き)ので利便性向上。しかし、かかるものはかかる。ソフトの更新も必要になる。一長一短がある。保守で100万円。コロナもあって始めたが、導入は恵庭分館だけであり、安くない。経費が浮かない。 |

○雑誌スポンサー制度をもう少し詳しく教えてほしい。

●HPやポスターで募集。恵庭まちづくり協同組合がHPを見て、社会貢献のために20紙提供申し出。企業に代金を支払ってもらいカバーに企業名を表示。お金ではなく雑誌のみの寄附。市内の企業や個人が対象。資料代の予算増額は難しいので、この制度を活用して図書館に紙の本を購入することにした。

○市民からどんな要望があるのか。

●指定管理者が実施する利用者アンケートでは、苦情はない。市の読書推進計画の見直しの際に、図書館が一生懸命取り組んでいるのにアピールが足りないという意見が何回か出されたので、計画などで反映して、できることから取り組みたい。

○建設の時点で住民の要望を取り入れていると聞いている。要望が取り入れられるからこそ、自分たちも主体的に関わろうと考えたり、こんなに良い物だからアピールした方が良いという話になってくる。建物が素晴らしいということだけではなくて、建物を取り巻く住民との関係性ができていることが、長く続くためには大事だと感じた。

●恵庭市は市民の意見を取り入れている建物が多いが、ここは民間施設なので異なる。街づくり課が作成したコンセプトは賑やかな場所であり、静かな場所を希望する人から初めは苦情があった。今は音楽をガンガン鳴らしても、勉強したり本を読んだりしている。

○私は賑やかな方が良いと思う。これから複合施設で運営する場合に、図書館は静かな場所ということとは相反する施設になることを堂々と位置づけて、最初から示していくことが大事で、後からやり出すと聞いていないという話が出る。最初の立ち上げが大事だと感じた。

○えにあすがサードプレイスとして機能しているかどうかの検証はどうしているのか。

●アンケートは図書館中心であり、そこまでは聞いていない。高齢者も学生も来ていて、色んな利用の仕方があると思うが、座る場所が少ないので、サードプレイスになっているかどうかは分からない。

○雑誌スポンサー制度以外に、他に民間の資金を活用しているか。

●ない

○どんなボランティアの活動があるか。

●読み聞かせ、本の修理、寄贈された本のリサイクル市運営、学校での読み聞かせ、花壇整備など。

○デジタルアーカイブとしての市史の電子化のボランティアと市史の電子化のボランティアは同じなのか。

●同じ筆耕の会がやってくれている。ただ、入力は慣れている家のパソコンで行ってデータを提出してもらう。

○帯広では音読ボランティアもあるが、こちらではどうか。

●対面朗読のボランティアもある。録音室もあるので、録音して図書館に置いたり郵送もしている。

○Wi-Fiはどこでもつながるのか。デジタル図書館が今後の中心になると思うが展望は

●どこでもつながる。電子図書館をやっている。コロナで来館者が減ったので、GIGAスクールで1人1台端末が導入されたことから、電子図書館を優先して子ども中心に取り組んできたが、大人向けにも公開した。DMマガジンとして雑誌は読み放題だが、周知が足りないのか一般向けの閲覧数が少ない。コンテンツが少ない課題もあるので、少しずつ増やしたい。

○これからはバーチャル空間での図書館が主になると思う。ここに来て本に触れることも大事だが、別の次元の図書館もあるのでと考えている。

●本館なら朝から夕方までいる人もいる。朝は新聞、その後DVD、CDを聞きながら少し眠ったりしている。使い方による。少子高齢化の時代であり、サードプレイスとして、用事がなければ図書館に行ってみようという施設になれば良いと思う。

○資料のデジタル化のボランティアはどうやって確保したのか。

●パソコンサークルに声をかけたら、その方達が筆耕の会としてデータ化し、それを専門の方がデジタル化してくれる。

○図書予約を電話でも対応していると聞いたが、デジタル化対応としてパソコンでの予約の仕方の説明をしているか。

●気軽に聞けるようにしてほしいという意見が懇談会で出されている。指定管理者とも協議して、もう少し丁寧に対応したい。

○ブックステーションをもっと近くに設置してほしいという声はあるか。

●予約ロッカーを置いてほしいという声はある。借りるのが楽なので要望が多い。ロッカーの貸出が多いのは珍しいと言われている。

○人によって関わり方が違う貸出の仕組みがあることは良い。

○バスで巡回して貸し出すような仕組みはあるか。

●実施していない。図書宅配サービスはあるが、税の公平性もあり片道300円かかる。5冊まで3週間借りられる。コロナの時にはぐっと増えた。今でも数名利用している。

○宅配は移動の手段のない人には便利かもしれない。

○建ったのが最近と聞いたが、借地権の切れる30年後に図書館がどうなっているか構想はあるか。

●考えなければならないが、今から30年前にはネットでシステムをつなげるかどうかを検討していた。電子図書館もネット予約も少し前には考えられなかった。本に関するニーズがどんどん変わっている。毎年毎年様子を見ながらだと思っている。図書館の在り方も変わっている。予測が付かない。

○世の中の動きは早い。30年後を踏まえた検討が必要であるが、5年後も分からないので、検討する場というか意見を話すチャンスがあると良いと思う。他の社会教育施設も機能が変わってきているが、図書館は大事である。この機能を持ちつつ柔軟に変えて行ければ良いと考える。

○借地権の切れる30年後に紙媒体が残るのかも不透明。その時に図書館が必要なのか。自宅のディスプレイで読む時代になるのではないかと。学校図書館との連携も難しい。北海道の図書館をリードしてきたのは恵庭市であり、今後も期待したい。

●図書館の充実を図ってきたが、他も追随しているので、ブックスタート等も他の市町村でも当たり前になっている。市民にも浸透しているので、読書のまちという認識がないのではという指摘が市議会が出されている。私たちの読書のまちというのは、活発だったボランティア活動を継承することであり、読書量全国No.1を目指すことではない。ただ、働く人が増えてきて、ボランティアの後継者が見つからないなど色んな意味でジレンマがある。

○コロナ禍で家で過ごす時間が長くなり、自分たちの時間の使い方が変わった。ここに来たら用事が済むという意味でも、複合施設は大事である。ボランティアも、この場に来て何かをするだけでなく、自宅にいながら誰かの手助けができるように変わってくるのかなと考える。時代時代に合わせた時間の使い方に注目している。ここに来ると図書館があって子育ての相談ができるなど、色んなことが1回ですむことが大事だと感じている。

○30年後には、Z世代、デジタルネイティブの世代の子育ては終わっている。そうするとデジタル、メタバースも終わっているのではないかと。メタバースで図書館を造ることで、実体のある図書館に市民を呼び込むことも必要になるかもしれない。デジタル世代、働く世代を呼び込むには、実体のないところで気軽にアクセスできることで、帰りに寄ってみようという気持ちにさせることも必要かもしれない。